

発眼卵の放流

令和4年11月6日（日）、五戸町の中市河川公園にて、疑似餌倶楽部ラフィングによる発眼卵の放流が行われました。

疑似餌倶楽部ラフィングは五戸町の釣り愛好家の皆さんの団体で、魚道の清掃活動・草刈りや稚魚の放流を行い、五戸川の環境や景観をまもる活動に尽力しています。

今年度の疑似餌倶楽部ラフィングによる主な活動の様子は下記で紹介しています。ぜひご覧ください。

令和4年4月17日放流の様子

<https://kankyokoukyo.hatenablog.com/entry/2022/05/02/134258>

令和4年6月19日放流の様子

<https://kankyokoukyo.hatenablog.com/entry/2022/06/07/183305>



放流が行われた五戸町中市河川公園
周辺の木々も色づき、紅葉している様子がきれいです

今回、発眼卵はサクラマス（ヤマメ）の発眼卵で、約 8,000 粒が放流されました。発眼卵とは、肉眼で卵の膜から魚の目が見える状態の卵のことをいいます。



発眼卵は、衝撃や日光にも弱いので、運搬は慎重に・・・

実は、発眼卵はこのまま放流するだけではうまく孵化することができません。成長するまでに流されてしまわないように、また外敵から守るために「容器放流」という工夫をします。まず、小さなカゴへ小分けにしていきます。このカゴは虫カゴのような形状で、水槽の役割をします。そして、カゴをコンテナに入れて川底へ設置し、川と同じ環境を保ちながら発眼卵を安全に成長させる準備を整えていきます。



自作のカゴへ丁寧に発眼卵をわけていく、疑似餌倶楽部ラフィングの皆さん

発眼卵の放流は、卵の段階から川の中で生活させるため、より自然に近い姿かたちの、きれいな魚を増やすことができるメリットがあるそうです。今回放流した発眼卵は、半月～１ヶ月程で孵化しはじめますが、孵化後も外敵から保護する目的でカゴの中で過ごします。来春３月頃にカゴから出し、川へ放流する予定です。



孵化した様子(令和３年度の写真)

環境公共では、「農林水産業が支える自然・景観・文化の保全・継承につながる取組」「持続可能で循環型の農林水産業の実現につながる取組」「地球環境問題への貢献につながる取組」の、３つの目標を掲げています。発眼卵を放流することは、持続可能で循環型の農林水産業の実現につながる、魚の保全になる取組です。

疑似餌倶楽部ラフィングの皆さんは、孵化率の確認も含め、観察のために何度も足を運ぶそうです。また、カゴから出して放流する時には、天候や成長の様子を考慮して行うそうです。五戸川を想う熱意が伝わってきます。疑似餌倶楽部ラフィングの皆さん、お疲れ様でした！